

専門分野

科目名	看護学概論			担当者	小貫 三佳		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	「看護とはなにか」を考えるための看護の本質、対象理解、健康と生活について学習し、看護の展開ができるようになるための知識を身につける。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の概念、看護の本質を説明することができる。 2. 看護の歴史的な変遷について述べるができる。 3. 看護理論より「看護とはなにか」を考える機会とする。 4. 看護の役割と機能について述べるができる。 5. 専門職としての看護師について説明することができる。 6. 看護職者の活動の場と法的責任について説明することができる。 7. 看護・看護学の動向を知りその未来と自己の今後のあり方について考えることができる。 8. 看護の対象としての人間とは何か、自分や取り巻く家族・環境より考えることができる。 9. 健康の概念、健康と看護の関係を説明することができる。 10. 自分の言葉により看護を説明することができる。 11. 看護専門職業人としての自覚を持つ機会となるようにする。 12. 指示されたことの意味を理解し、積極的に取り組むことができる。 						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	看護の概念・本質 ビデオ「あなたの声が聴きたい」	講義
2	2	看護の歴史的変遷(戦前まで)・看護の機能と役割(保健師助産師看護師法)	講義
3	2	看護理論 ナイチンゲールについて	講義
4	2	看護の歴史的変遷・看護理論 課題(看護理論まとめ)	講義
5	2	看護理論 課題(看護理論まとめ)・看護の活動の場と法的責任	講義
6	2	看護の活動の場と法的責任・専門職としての看護師(保険含む)	講義
7	2	看護の活動の場と法的責任	講義
8	2	看護の活動の場と法的責任	講義
9	2	看護の活動の場と法的責任 医療事故から学ぶGW	演習
10	2	看護の活動の場と法的責任 医療事故から学ぶGW	演習
11	2	看護の活動の場と法的責任 医療事故から学ぶGW・発表	演習
12	2	看護とはなにか 看護・看護学の未来・地域医療含む GW	演習
13	2	看護の対象としての人間とは何か／取り巻く家族環境 GW	演習
14	2	健康の概念、健康と看護 GWのまとめ	演習
15	2	看護とはなにか まとめ	講義

教科書・参考図書	「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学①看護学概論」メディカ出版
成績評価方法	筆記試験80%、提出レポート・講義・演習への積極的参加20%によって総合的に評価する。
履修上の注意点	看護専門職業人としての自覚を持つ機会となるように学習してください。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
小貫三佳:7年間病院にて看護師として勤務

専門分野

科目名	看護倫理			担当者	芳賀 百合子		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間	実務経験の有無	
科目目的	看護における倫理について学び、看護師として倫理的判断をするための基礎的能力を身につける。						
到達目標	1. 看護実践における倫理の重要性について述べることができる。 2. 臨床現場で看護職が遭遇する道徳的ジレンマと倫理的課題について気づく視点を持つことができるようになる。 3. 倫理的問題を解決するための方法について考えることができるようになる。 4. 看護師として自覚と責任をもち、倫理的判断をしていく姿勢が持てるようになる。 5. 他者との関わりで、自己の考えを言葉で表現し、他者の意見を意識して聞くことができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1~8	2×8回	看護倫理 ・看護師とは、看護の基本となる定義と概念 看護者の倫理綱領 価値、ジレンマ、事例検討 倫理的意思決定モデル・プロセス、生命倫理 サラ・フライの意思決定モデルを活用して事例検討	講義・演習

教科書・参考図書	「ナースング・グラフィカ 基礎看護学①看護学概論」メディカ出版
成績評価方法	試験100%、講義・演習への積極的参加を含む
履修上の注意点	看護専門職業人としての看護倫理を持つ機会となるように学習してください。

専門分野

科目名	看護過程			担当者	小貫 三佳		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	看護実践の方法としての看護過程を学習し、演習を通して、問題解決技法を身につける。						
到達目標	1. 看護過程の定義と位置づけ、看護過程発展の歴史、看護過程の構成要素を述べることができる。 2. 看護理論と看護過程の相互関係を述べるができる。 3. 看護過程のプロセスを説明することができる。 4. 看護過程を展開するための思考過程を身につけることができる。 5. 事例のアセスメント(情報の解釈・患者の全体像と関連図の作成)をすることができる。 6. 個人ワーク・グループワークの成果を発表し、自グループのまとめたことを他グループに説明することができる。 7. わからないことをそのままにせず、解決に向けて取り組むことができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	看護過程とは 構成要素 / 個人情報管理について	講義
2	2	看護過程とは 問題志向について・論理的思考・クリティカルシンキング	講義
3	2	アセスメントとは ヘンダーソンの枠組み	講義
4・5	4	アセスメントとは 情報の持つ意味 事例をとおして	講義・演習
6・7・8	6	看護アセスメント:用紙記入 ヘンダーソンの枠組みを使って	講義・演習
9・10・11	6	看護アセスメント:用紙記入 関連図を記入	講義・演習
12	4	看護計画について /看護過程GW	講義・演習
13・14	4	看護過程 GW/発表	講義・演習
15	2	看護過程 GW発表	講義・演習

教科書・参考図書	「新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I」メヂカルフレンド社
成績評価方法	試験60%、講義への積極的参加・毎回の看護過程提出40%
履修上の注意点	事例を通して演習するため提出期限をしっかりと守る。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
小貫三佳:7年間病院にて看護師として勤務

専門分野

科目名	看護理論と症状別看護			担当者	小貫 三佳		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	看護理論に触れることができる。 状を理解することで、臨床の場における看護の対象者の理解と看護援助を えることができる。						
到達目標	看護理論 1. ナイチンゲールの看護理論について述べるができる。 2. ヘンダーソンの看護理論について述べるができる。 3. 学習内容を理解し、積極的に取り組むことができる。 症状別看護 4. 主要症状における基礎知識を身につけることができる。 5. 主要症状における看護援助を身につけることができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	ヘンダーソンについて ヘンダーソンの考える看護 「看護の基本となるもの」より	講義
2	2	ヘンダーソンの考える看護の理解 「看護の基本となるもの」より	講義・演習
3	2	ヘンダーソンの考える看護の理解 「看護の基本となるもの」より	演習
4	2	ヘンダーソンの考える看護の理解 「看護の基本となるもの」より	講義・演習
5	2	ナイチンゲールの考える看護の理解 「看護覚え書」より GW	演習
6	2	ナイチンゲールの考える看護の理解 「看護覚え書」より GW	演習
7	2	ナイチンゲールの考える看護の理解 「看護覚え書」より GW発表	講義・演習
8	2	主要症状における基礎知識	講義・演習
9	2		
10	2	症状に応じた看護援助	講義
11	2	事例を通して考える症状のある患者への看護 GW	演習
12	2		
13	2		
14	2	症状のある患者への看護 発表	演習
15	2	まとめ	講義

教科書・参考図書	「看護覚え書～看護であるものとなないもの」フロレンス・ナイチンゲール 現代社 「看護の基本となるもの」ヴァージニア・ヘンダーソン 日本看護協会出版会
成績評価方法	筆記試験60%、レポート提出、講義・演習への積極的参加、発表40%によって総合的に評価する
履修上の注意点	今回の科目は、看護学概論での看護理論の学びから続いている。 この科目での学びは、臨床実習で実際の患者に看護援助を適用できるようにしていく。

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
小貫三佳：7年間病院にて看護師として勤務

専門分野

科目名	看護の共通基本技術			担当者	渡辺 繭美		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	看護の共通基本技術におけるコミュニケーションの基本的な知識と技術身につける。 感染予防の意義と原則を理解し、感染防止対策を行うことができる。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術とは何か、看護技術学習について理解することができる。 基本技術(コミュニケーション) 2. 人間関係を促進するコミュニケーション技法について説明することができる。 3. 看護の場におけるコミュニケーション技術を習得することができる。 4. 自分の傾向がわかり、自分の課題を意識しながらコミュニケーションがとれる。 基本技術(感染防止対策) 5. 感染と感染予防策の基礎知識を説明することができる。 6. 感染経路への対策について説明することができる。 7. 清潔・不潔の区別ができ、感染予防に必要な基本技術を習得することができる。 基本技術(安楽確保の技術) 8. 看護における安楽の意義、基本的体位について説明することができる。 9. 安楽な体位の保持の技術を習得することができる。 10. ボディメカニクスを習得することができる。 						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	看護技術の意義と目的、考え方 看護技術とは 看護実践のための教育の準備 看護独自の専門技術	講義
2	2	コミュニケーション(基本技術) コミュニケーション技術 コミュニケーションの基礎知識	講義
3	2	ミニテスト 看護におけるケアリングとコミュニケーション	講義
4・5	4	看護におけるコミュニケーションの実際 ロールプレイ	演習
7	4	コミュニケーション演習 看護の場におけるコミュニケーション技術	講義・演習
8	2	感染防止対策(基本技術) 感染と感染予防策の基礎知識 感染の成立と感染対策の実際	講義
9・10	4	ミニテスト / 感染予防の方法 スタンダードプリコーション (1) 感染源への対策	講義・演習
11～13	6	隔離法および感染源の拡散防止、人体の防御機能の増強に向けて / スタンダードプリコーション	講義・演習
14・15	4	ミニテスト / 安楽確保の技術(基本技術) 安楽確保の技術・看護における安楽の意義	講義・演習

教科書・参考図書	「新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I」 メヂカルフレンド社
成績評価方法	出席と終了時試験で評価する。筆記試験80%、演習(技術試験あり)・課題20%
履修上の注意点	指定された動画教材を視聴し、演習に臨むこと

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
渡辺繭美:11年間病院にて看護師として勤務

専門分野 I

科目名	日常生活の援助技術 I			担当者	大沼 キヨイ		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な生活環境を整えるための援助方法を身につける。 人間の生活における活動と休息、睡眠への援助方法を身につける。						
到達目標	<u>基本的日常生活援助技術(環境)</u> 1. 環境の諸要素とその調整、快適な病室と病床環境について説明できる。 2. 環境を整える技術を習得することができる。 3. ベッドメイキングの技術を習得することができる。 <u>ヘンダーソンのニーズの充足をとおして活動、睡眠について考える</u> <u>基本的日常生活援助技術(活動・休息の援助技術)</u> 4. 活動と休息について、活動のアセスメントを説明することができる。 5. 活動・休息の援助について説明することができる。 6. 運動機能が低下した人の援助(車椅子での移送、歩行・移動介助、移乗動作、ストレッチャー移送)を習得することができる。 7. 学習の場に積極的に参加することができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1・2	4	<u>環境を整える技術(基本的日常生活援助技術)</u> 環境の諸要素とその調整・快適な療養環境の整備病室と病床	講義・演習
3～6	8	病室と病床の環境調整・ベッドメイキング(技術試験あり)	講義・演習
7～10	8	ミニテスト / 臥床患者のリネン交換(技術試験あり)	講義・演習
11	0	<u>ヘンダーソンのニーズの充足をとおして「体位、清潔、皮膚・創傷管理」</u> 活動・休息の援助技術(基本的日常生活援助技術)	0
12	0	運動機能の維持・回復の援助活動のアセスメント ヘンダーソン「身体を動かす、またよい姿勢を保持する」 体位変換・保持、自動・他動運動の援助	0
13・14	4	運動機能の低下した人の援助・動く事の意味 車椅子での移送、歩行・移動介助、移乗動作、ストレッチャー移送	演習
15	0	ミニテスト ヘンダーソン「睡眠と休息をとる」	0

教科書・参考図書	「新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I」メヂカルフレンド社
成績評価方法	出席と終了時試験で評価する。筆記試験70%、演習(技術試験あり)・課題30%
履修上の注意点	指定された動画教材を視聴し、演習に臨むこと

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
大沼キヨイ:12年間病院にて看護師として勤務

専門分野

科目名	日常生活の援助技術Ⅱ			担当者	渡辺 繭美		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	人間の生活における食と排泄の意義と援助方法について理解し、援助の基本的方法を身につける。 ヘンダーソンのニードの充足をとおして食と排泄について理解することができる。						
到達目標	ヘンダーソンのニードの充足をとおして食について考える 基本的日常生活援助技術(食生活と栄養摂取の援助技術) 1. 食事・栄養摂取の意義とアセスメントについて説明することができる。 2. 食事援助と栄養摂取のための援助技術について説明することができる。 ヘンダーソンのニードの充足をとおして排泄について考える 基本的日常生活援助技術(排泄の援助技術) 3. 排泄の意義とアセスメントについて説明することができる。 4. 排便障害のある患者の援助について説明することができる。 5. 排尿障害のある患者の援助について説明することができる。 6. 排泄の援助について習得することができる。 7. 排泄に関する処置について説明することができる。 8. 学習の場に積極的に参加することができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	ヘンダーソンのニードの充足をとおして「食、排泄」 食生活と栄養摂取の援助技術(基本的日常生活援助技術) プレテスト	講義
2	2	患者への食事の援助とアセスメント 医療施設で提供される食事の種類と特徴 様々な病院の食事	講義
3	2	食のニード・食のニードとは ヘンダーソン「患者の飲食を助ける」	講義
4・5	4	患者への食事の援助(食事介助・食事指導)	演習
6	2	非経口摂取(経管栄養法による流動食の注入) 経腸栄養、経鼻胃チューブによる栄養摂取(経鼻胃チューブの挿入)	演習
7	2	排泄の援助技術(基本的日常生活援助技術) *自分の排泄のニードをアセスメントしてみる。 ミニテスト / 排泄の意義としくみ・排泄とは	講義
8・9	4	排泄のニード・排泄の援助 排泄用具の種類・ヘンダーソン「患者の排泄を助ける」	講義
10～13	8	排泄の援助の実際・床上・ポータブルトイレ・差し込み便器 おむつ交換・陰部洗浄	演習
14・15	4	排泄に関する処置(浣腸)/摘便/ストーマケア/ 一時的導尿(挿入)/持続的導尿(膀胱留置カテーテルの管理・挿入)	演習

教科書・参考図書	「新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」メヂカルフレンド社
成績評価方法	出席と終了時試験で評価する。筆記試験80%、演習・課題20%
履修上の注意点	指定された動画教材を視聴し、演習に臨むこと

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
渡辺繭美：11年間病院にて看護師として勤務

専門分野

科目名	日常生活の援助技術Ⅲ			担当者	酒井 知美		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	身体の清潔と衣生活の意義を理解し、援助方法を身につける。						
到達目標	<p>ヘンダーソンのニードの充足をとおして清潔について考える <u>基本的日常生活援助技術(清潔・衣生活の援助技術)</u> 1. 清潔の意義について説明することができる。 2. 清潔の援助について習得することができる。 3. 衣生活(寝衣交換)の援助技術について習得することができる。 4. 学習の場に積極的に参加することができる。</p>						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1・2	4	清潔・衣生活の援助技術(基本的日常生活援助技術) 清潔の意義、清潔の援助技術 清潔のニード	講義
3～5	6	清潔の援助技術 / 洗髪、入浴・シャワー浴の介助、口腔ケア、整容部分浴(足浴・手浴)	演習
6～13	16	清潔の援助技術/ 全身清拭 (技術試験あり) 点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換	演習
14・15	4	点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換	演習

教科書・参考図書	「新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」メヂカルフレンド社
成績評価方法	出席と終了時試験で評価する。筆記試験80%、演習(技術試験あり)・課題20%
履修上の注意点	指定された動画教材を視聴し、演習に臨むこと

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
 酒井知美: 14年間病院にて看護師として勤務

専門分野

科目名	フィジカルアセスメント I			担当者	酒井 知美		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	15時間	実務経験の有無	有
科目目的	バイタルサインの測定・身体計測の意義と方法を理解し、バイタルサイン測定・身体計測の基本的方法を身につける。						
到達目標	<u>基本技術(一般状態のアセスメント)</u> 1. バイタルサイン測定の基本的方法を習得することができる。 2. 身体計測の基本的方法を習得することができる。 3. 学習の場に積極的に参加することができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	一般状態のアセスメント(基本技術) *「解剖生理学」、「基礎看護学技術論 I」で学んだフィジカルアセスメントを想起しながら学習する。 プレテスト / バイタルサイン測定の援助 一般状態のアセスメント	講義
2	2	ミニテスト / バイタルサインの測定と観察・ バイタルサインに関する測定方法の根拠 身体計測—身長・体重・腹囲	講義
3	2	身体計測と観察	演習
4~8	10	バイタルサインの測定と観察 / 援助の実際(技術試験あり)	演習

教科書・参考図書	「新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I」メヂカルフレンド社
成績評価方法	出席と終了時試験で評価する。筆記試験80%、演習(技術試験あり)・課題20%
履修上の注意点	指定された動画教材を視聴し、演習に臨むこと

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
酒井知美: 14年間病院にて看護師として勤務

専門分野

科目名	フィジカルアセスメントⅡ			担当者	酒井 知美		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	フィジカルアセスメントの基本的な知識と技術を身につける。						
到達目標	<u>基本技術(フィジカルアセスメント)</u> 1. フィジカルアセスメントの基本技術を習得することができる。 2. 対象に応じたフィジカルアセスメントの展開を習得する。 3. 学習の場に積極的に参加することができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	フィジカルアセスメント(基本技術) ヘルスアセスメントを学習する意義	講義
2~4	6	系統的なフィジカルアセスメントの実際 呼吸器系・循環器系・消化器系	講義・演習
5~7	6	系統的なフィジカルアセスメントの実際 脳神経系・運動器系	講義・演習
8~15	16	事例患者のフィジカルアセスメント	講義・演習

教科書・参考図書	「新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」メヂカルフレンド社
成績評価方法	出席と終了時試験で評価する。筆記試験80%、演習・課題20%
履修上の注意点	指定された動画教材を視聴し、演習に臨むこと

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
酒井知美: 14年間病院にて看護師として勤務

専門分野

科目名	診療に伴う看護技術 I			担当者	大沼 キヨイ		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	呼吸・循環・体温を整える技術を身につける。 ヘンダーソンのニードの充足をとおして呼吸について理解することができる。 皮膚・創傷管理について、援助方法を身につける。 生体機能のモニタリングができる。						
到達目標	<u>診療に伴う看護技術(呼吸・循環・体温を整える技術)</u> <u>ヘンダーソンのニードの充足をとおして呼吸について考える</u> 1. 呼吸の意義とアセスメントについて説明することができる。 2. 呼吸・循環・体温を整える技術について説明することができる。 <u>診療に伴う看護技術(救命・救急処置技術)</u> 3. 救急・救命処置の意義と目的を説明することができる。 4. 救命救急処置技術を習得することができる。 <u>診療に伴う看護技術(創傷管理技術)</u> 5. 創傷管理の基礎知識について説明することができる。 6. 創傷管理の処置について説明することができる。 7. 褥瘡の予防について説明することができる。 8. 学習の場に積極的に参加することができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	呼吸・循環・体温を整える技術(診療に伴う看護技術) ヘンダーソンのニードの充足をとおして[呼吸する] 呼吸の意義とアセスメント / 呼吸・循環の働き	講義
2	2	ミニテスト / 呼吸のしくみ / パルスオキシメーター体験	講義
3	2	呼吸のニード / ヘンダーソン「正常に呼吸する」	講義
4	2	呼吸を楽にする姿勢・呼吸法・呼吸を楽にする姿勢・呼吸法の実際(体位ドレナージ医療機器—酸素ポンプ)	講義
5	2	酸素吸入・気道内吸引 / 酸素吸入療法の基礎知識	講義
6・7	4	呼吸のしくみと働き / 酸素吸入・気道内吸引の実際(口腔内・鼻腔内吸引・気管内吸引)	演習
8	2	ミニテスト / 浮腫の発生機序 主要な症状や徴候、看護の実際	講義
9	2	体温管理 ヘンダーソン「衣類の調整と環境の調整により、体温を正常範囲に維持する」 / 体温調節のしくみとメカニズム 電法援助前の援助計画	講義
10・11	4	末梢循環促進の援助 体温管理・保温の援助 (体温調節の援助)	講義・演習
12・13	4	救命救急処置技術(診療に伴う看護技術) 救命処置の意義と目的(緊急時の応援要請、一次救命処置BLS,止血)	演習
14・15	4	創傷管理技術(診療に伴う看護技術) 創傷管理技術・創傷治癒の過程・創傷の予防や治癒促進への援助	演習

教科書・参考図書	「新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I」メヂカルフレンド社
成績評価方法	出席と終了時試験で評価する。筆記試験80%、演習・課題20%
履修上の注意点	指定された動画教材を視聴し、演習に臨むこと

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
大沼キヨイ:12年間病院にて看護師として勤務

専門分野

科目名	診療に伴う看護技術Ⅱ			担当者	酒井 知美		
履修学年	1年次	単位数	1単位	時間数	30時間	実務経験の有無	有
科目目的	診療・検査の目的と看護師の役割を理解し、対象への援助方法を身につける。 薬剤が人体に及ぼす影響を理解し、与薬に関する基礎的知識と安全な与薬方法を身につける。						
到達目標	診療に伴う看護技術 1. 検査に伴う看護の役割について説明することができる。 2. 検査に伴う看護技術について習得することができる。 3. 与薬に関する基礎知識、与薬法について説明することができる。 4. 与薬・輸血の技術について習得することができる。 5. 学習の場に積極的に参加することができる。						

授業計画

回	時間	授業内容	授業方法
1	2	検査に伴う看護技術(診療に伴う看護技術) 与薬・輸血の技術(診療に伴う看護技術)(輸血の管理) プレテスト 検査に伴う看護技術 検査に伴う看護の役割 診療を受ける対象の心理的・身体的特徴 与薬法の基礎的知識	講義
2・3	4	ミニテスト 診療・検査の介助技術・検体検査方法、生体検査の援助方法 検体(尿、血液等)の取り扱い、検査の介助	講義
4	2	与薬の技術 経口薬(パッカル錠、内服薬、舌下錠)の投与、経皮・外用薬の投与 坐薬の投与	講義
5・6	4	注射の適応と種類、構造、輸液ポンプ(演習)	講義・演習
7	2	皮下注射、皮内注射、筋肉注射、静脈内注射、静脈路確保、点滴静脈内注射の管理、医療機器(輸液ポンプ・シリンジポンプ)	講義
8	2	注射法(皮内・皮下・筋肉・静脈内注射) 穿刺部位と神経損傷	講義
9～13	10	注射法の実際 皮下・筋肉・静脈内注射(技術試験あり)	演習
14・15	4	血液検査の実際 静脈血採血、簡易血糖測定	講義・演習

教科書・参考図書	「新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」メヂカルフレンド社
成績評価方法	出席と終了時試験で評価する。筆記試験70%、演習(技術試験あり)・課題30%
履修上の注意点	指定された動画教材を視聴し、演習に臨むこと

その他 この科目は、実務経験のある教員による科目である。
酒井知美：14年間病院にて看護師として勤務